



がん患者さんの味覚障害

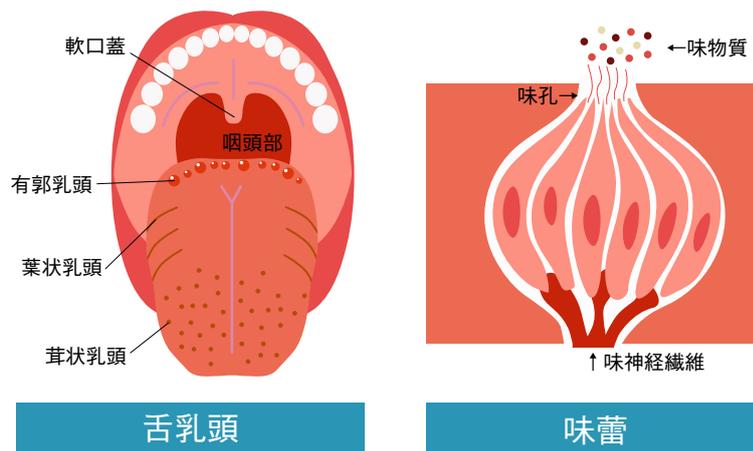
味を感じにくい、何を食べても苦いといった症状が味覚障害にはみられます。味覚障害の原因はさまざまですが、がん治療に伴う味覚障害は、食欲の減退や生活の質（QOL）低下の大きな要因となり、患者さんの体力維持や治療への意欲にも影響します。



味を感じるメカニズム

味を感じる細胞を味細胞といい、その集まりを味蕾(みらい)といいます。味蕾の総数は約9,000個といわれており^{*1}、舌表面の乳頭や軟口蓋、のどにあります(図1)。

図1 舌乳頭と味蕾



人は、味のもとになっている物質を味細胞でキャッチすると、その情報が脳に届けられ、甘味、苦味、酸味、塩味、うま味、脂肪味の6つの味として感じ取ります。

そしゃく 咀嚼と唾液分泌

味の情報を脳に届けるためには水分が必要です。食事を十分に噛むことで唾液の分泌が促進されるなどして、味の情報がキャッチしやすくなります。

【いつもと違う症状があるときには、医師や看護師、薬剤師等に相談しましょう】

連絡先(医療機関名)

がん情報サイト
Assist
はこちら



<https://oncology-assist.jp/public/>

Copyright © 2024 DAIICHI SANKYO ESPHA Co., LTD. All Right Reserved.



味覚と嗅覚

食事をおいしく感じるためには、においも大切な要素です。においは鼻からにおいの成分が入り込み、その情報が脳に届くことで伝えられます。味とにおいでは脳への伝達経路は異なるものの、密接に関連しているため、においを感じることができない嗅覚障害でも味を感じにくくなる場合があります。また、味覚障害と嗅覚障害を併発する人もいます。

がん治療に伴う味覚障害と症状

味覚障害は、味を感じる機能やそれを脳に伝える経路の障害などによって起こります。その原因はさまざまですが、はっきりとはわからないこともあります。主なものとして亜鉛不足によるものや薬剤によるもの、風邪、心因ストレスなどがあげられます。

がん治療は味覚障害の原因のひとつで、がんによる全身状態の悪化、がんによる不安や抑うつ、がん治療で使用する抗がん剤、頭頸部への放射線治療などによって起こることがあります。味覚障害の程度には個人差がありますが、がん患者さんには比較的高い割合で起こることがわかっており、がん治療や日常生活に与える影響も少なくありません。



手術による味覚障害

口腔、頸部、耳、咽喉頭、唾液腺の手術では、味覚神経が障害されたり、唾液分泌量が減少したりなど、味覚障害が出ることがあります。また、胃や十二指腸がんで切除手術を受けた患者さんでは亜鉛や鉄などの微量元素、ビタミンが吸収されにくくなって不足し、味覚障害が出ることもあります。

放射線治療による味覚障害

口腔がんや頭頸部がんなどの放射線治療は、味細胞が傷害を受けたり、口腔粘膜に炎症が起きたり、唾液腺の分泌が低下したりすることがあり、それが味覚障害を引き起こすことがあります。通常、放射線治療による味覚障害は、治療後約半年程度で回復に向かうことが多いといわれています。

【いつもと違う症状があるときには、医師や看護師、薬剤師等に相談しましょう】

連絡先(医療機関名)

がん情報サイト
Assist
はこちら



<https://oncology-assist.jp/public/>

Copyright © 2024DAIICHI SANKYO ESPHA Co., LTD. All Right Reserved.



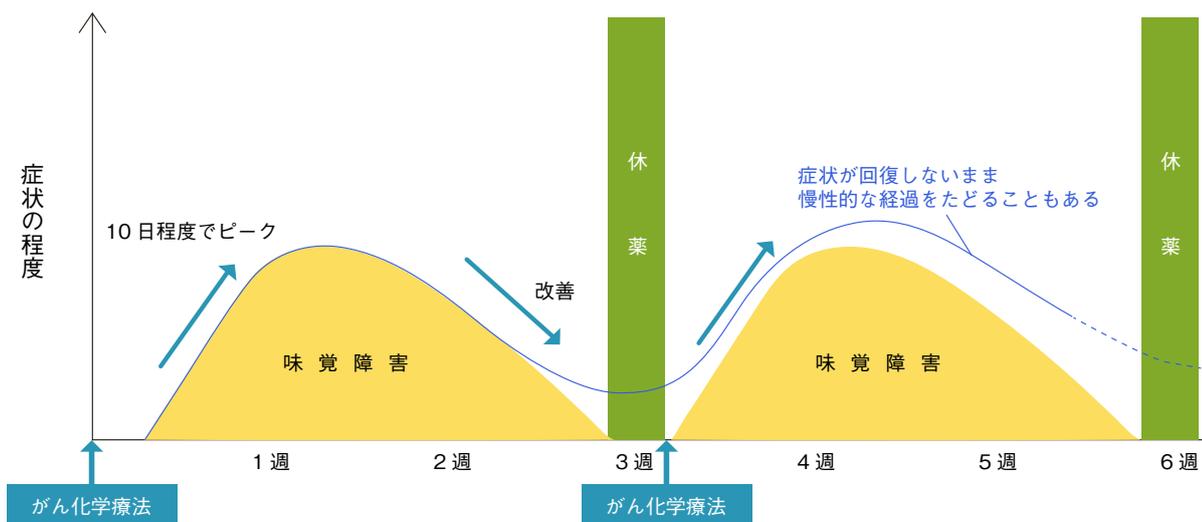
抗がん剤の副作用による味覚障害

味細胞はターンオーバーが盛んな細胞で、10日程度で入れ替わるといわれています。細胞障害性抗がん剤という種類の抗がん剤は、細胞を攻撃する作用があり、がん細胞以外の細胞も傷つけてしまいます。味細胞も例外ではなく、攻撃されることで細胞のターンオーバーが乱れてしまうため、味覚障害が起こります。とくに抗がん剤の副作用による味覚障害は、味覚が落ちたり、なくなったり、親しんできた味と違うように感じたり、口のなかに何も無いのに苦味や渋みを感じたりすることが多いといわれています。

抗がん剤による味覚障害が出る時期

抗がん剤による味覚障害は、治療開始の早い時期（投与開始2～3日後）から症状が現れます（図2）。

図2 抗がん剤による味覚障害の出現時期（イメージ）



治療終了後3～4週間の次のクール開始までに味覚は回復することもあります。再び治療が始まると味覚障害の症状が出ます。がん治療中はこのサイクルを繰り返すことになるため、「味覚が元に戻らないまま次の抗がん剤治療が始まると治療が終わっても元に戻らないのではないか」「次のクールはもっと味覚障害がひどくなるのでは……」など、不安を感じてしまうことが少なくありません。

【いつもと違う症状があるときには、医師や看護師、薬剤師等に相談しましょう】

連絡先(医療機関名)

がん情報サイト
Assist
はこちら



<https://oncology-assist.jp/public/>

Copyright © 2024DAIICHI SANKYO ESPHA Co., LTD. All Right Reserved.



がん治療に伴う味覚障害は、治療の終了とともに改善していきますが、治療中はつらさを我慢してしまう患者さんが少なくありません。がん治療中は体力を維持するためにも食事は重要です。食べる楽しみや生活の質（QOL）を保つためにも気になる症状があれば医療従事者に相談しましょう。

<文献>

- ※ 1 池田稔・生井明浩：味覚の基礎と臨床についての概説. 耳鼻咽喉科展望, 耳鼻咽喉科展望会, 38 (6) : 762-768, 1995.
https://www.jstage.jst.go.jp/article/orltokeo1958/38/6/38_6_762/_pdf (2024年8月14日閲覧)
- ・ Nin T, Tsuzuki K. Diagnosis and treatment of taste disorders in Japan. *Auris Nasus Larynx*. 51(1):1-10, 2024.
<https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/37117102/> (2024年8月14日閲覧)
- ・ 石川寛著・野村久祥編：がん薬物療法の「スキマ」な副作用～困った症状と正しく向き合う！～ 第3回味覚障害（味覚異常）. 月刊薬事, じほう. 60 (4) : 107-113, 2018.
- ・ 栗橋健夫：栄養を科学するイラスト解説 味覚障害のメカニズムを探る！ 唾液と咀嚼のはたらき. *Nutrition Care*, メディカ出版, 14 (8) : 16-22, 2021.
- ・ 任智美：栄養を科学するイラスト解説 味覚障害のメカニズムを探る！ 全身性疾患と味覚障害. *Nutrition Care*, メディカ出版, 14 (8) : 36-40, 2021.
- ・ 任智美ほか：総説「教育講演 味覚の基礎と臨床」味覚障害の基礎と臨床. *口腔・咽頭科*, 日本口腔・咽頭科学会, 30 (1) 31-35, 2017.
https://www.jstage.jst.go.jp/article/stomatopharyngology/30/1/30_31/_pdf (2024年8月14日閲覧)
- ・ 東加奈子・竹内裕紀：栄養を科学するイラスト解説 味覚障害のメカニズムを探る！ 薬剤と味覚障害の関係. *Nutrition Care*, メディカ出版, 14 (8) : 41-45, 2021.
- ・ 古賀亜希子・菊池由宣：がん患者さんの“食”を守るアセスメントとケア どんなときに起こる？シチュエーション別に学ぶ食の悩みアセスメント&ケア がん薬物療法による悪心・嘔吐、味覚障害（予測的悪心・嘔吐を含む）. *YORi-SOU がんナーシング*, メディカ出版, 12 (6) : 17-20, 2022.
- ・ 厚生労働省：重篤副作用疾患別対応マニュアル 薬物性味覚障害
<https://www.pmda.go.jp/files/000245252.pdf> (2024年8月14日閲覧)
- ・ 小林由佳ほか：特集：がん患者に対する栄養療法と周辺の問題 がん化学療法に伴う摂食障害（悪心嘔吐、味覚異常など）の対策. *静脈経腸栄養*, 日本栄養治療学会, 28 (2) : 39-46, 2013.
https://www.jstage.jst.go.jp/article/jjspen/28/2/28_627/_pdf (2024年8月14日閲覧)
- ・ 藤山理恵・角忠輝：化学療法による味覚障害について. *日本口腔診断学会雑誌*, 35 (3) 173-182, 2022.
https://www.jstage.jst.go.jp/article/jsodom/35/3/35_173/_pdf/-char/ja (2024年8月14日閲覧)
- ・ 日本鼻科学会：嗅覚障害診療ガイドライン. *日本鼻科学会誌*, 56 (4) : 487-556, 2017.
https://www.jstage.jst.go.jp/article/jjrhi/56/4/56_487/_pdf/-char/ja (2024年8月14日閲覧)

監修：兵庫医科大学医学部耳鼻咽喉科・頭頸部外科
任 智美 先生

この記事は 2024 年 8 月現在の情報となります。

【いつもと違う症状があるときには、医師や看護師、薬剤師等に相談しましょう】

連絡先(医療機関名)

がん情報サイト
Assist
はこちら



<https://oncology-assist.jp/public/>

Copyright © 2024DAIICHI SANKYO ESPHA Co., LTD. All Right Reserved.